

(参考) 我が国が取り組むべき海洋国家基幹技術

海洋基本計画における海洋国家日本の目指すべき姿

海洋の開発・利用による 富と繁栄

ー海洋資源等、海洋の持つ潜在力を最大限に引き出す

「海に守られた国」 から「海を守る国」へ

ー津波等の災害に備えるとともに、安定的な交通ルートを確保
ー海洋をグローバルコモンズ(国際公共財)として保ち続ける

国際協調と国際社会への 貢献

ーアジア太平洋を始めとする諸国との国際的な連携を強化
ー法の支配に基づく国際海洋法秩序の確立を主導

未踏のフロンティアへの 挑戦

ー海洋の未知なる領域の研究の推進による人類の知的資産の創造への貢献
ー海洋環境・気候変動等の全地球的課題の解決に取り組む

国家基幹技術プロジェクト

次世代の海洋資源開発に向けた技術開発プロジェクト

次世代海洋資源 調査システム

→平成30年度までに、海底下の鉱物資源を探索する技術を確認し、海底地形情報や海底下鉱物資源情報を効率良く取得するシステムを開発

次世代海洋エネルギー・ 鉱物資源生産システム

→海洋エネルギー・鉱物資源開発計画に沿って、平成30年度までに生産手法の実証等を実施

次世代環境影響 管理システム

→平成30年代前半までには、長期にわたり継続的に環境影響の監視と管理を行い得るシステムを構築

次世代広域海洋環 境観測システム

→平成30年度までに高精度季節予測手法の確立や気候変動リスク監視を達成するシステムを構築

未踏領域 探索システム

→平成30年中頃までに、超深海へのアクセス(世界最深部での有人観測、マントル掘削)を可能にするシステムを構築

次世代海洋再生 可能エネルギー 発電システム

→海洋再生可能エネルギーを利用した発電システムの実機の開発

重要基盤技術

一体的な推進

有人潜水調査船・
無人探査機技術

海洋エネルギー・
鉱物資源開発・
生産技術(採鉱・揚鉱等)

環境影響評価技術

衛星観測技術

海象・気象予測・
計測技術

水中音響・通信技術

浮体位置保持・係留技術

ケーブル式海底観測
プラットフォーム技術

深海底～洋上～衛星～
陸上リアルタイムデータ
通信技術

超大水深・超大深度
掘削技術

農林水産業

計測技術、機械工学、材料・素材技術、プラント技術等の多種多様な要素技術

情報通信
産業

バイオ産業

食品産業

材料産業

環境・エネルギー
産業

機械産業

医療産業